

# 魅力ある学校づくり協議会 (上板橋第二中・向原中) ニュース

第11号

発行日：平成 27 年 8 月 14 日  
 開催日：平成 27 年 7 月 28 日  
 発行：板橋区教育委員会事務局  
 新しい学校づくり課  
 学校配置調整担当課長  
 電話 3579-2624

第 11 回協議会から議事を二部制にし、第一部では学校の統合に関する検討、第二部では新しい学校の設計に関する検討を行っていきます。

## 事務局より向原中学校入学説明会報告

7月18日(土)の向原中学校入学説明会で、教育委員会事務局から主に「魅力ある学校づくり協議会(上板橋第二中・向原中)中間のまとめ」について説明をしました(来場者数:12名)。入学を控えたお子さんをお持ちの保護者の方からのご要望として、統合時には向原中の先生を上板橋第二中に人事異動させて欲しい、子どもがデリケートな時期なので、人的支援の面で充実させてほしいというものがありませんでした。要望はしっかり受け止め、人的支援についても担当課に要望し、できる限りの対応をしていきます。

## ※魅力ある学校づくり協議会(上板橋第二中・向原中)中間のまとめ 抜粋【再掲】

上板橋第二中学校と向原中学校の学校改築と統合についての方向性

- ①上板橋第二中学校と向原中学校を統合します。
- ②校名は「上板橋第二中学校」とします。
- ③統合時期は平成30年4月1日とします。
- ④校舎の建築期間中は、上板橋第二中学校の校舎を使用し、向原中学校校地に建設する新校舎完成後、新校舎に移転します。

## 第一部

### 統合に関する検討事項及び協議会スケジュール等

学校を統合・改築するにあたり様々な検討事項を遅滞なく協議していく必要がありますが、膨大な時間を必要とし、魅力ある学校づくり協議会だけでは議論を尽くすことが難しい状況です。

また、最新の人口動態を参考にすべき検討事項、交流事業や記念誌の作成のように統合前年度に行うべき事項、統合後通学する生徒の保護者の皆様でご検討いただく方がよい事項など、検討に適している時期も様々であることから、検討事項と検討時期を整理し、分割して協議することになりました。

平成27年度内に新しい学校の設計案のまとめを行い、学校統合に関する最終的な協議会の意見書を中間のまとめをベースにまとめていく予定です。平成28年度以降に検討する事項については新たに会議体を立ち上げ、協議していくことも検討します。

### 【魅力ある学校づくり協議会(上板橋第二中・向原中)協議項目及びスケジュール(予定)】

開催時期	新しい学校に関する基本構想	学校統合に関すること
第12回 9月	施設に対する要望などの意見交換 (例)安全性・防犯に配慮した門の配置にしてほしい。	跡地の活用について 小中一貫教育の検討
第13回 10月	機能ごとの区画分け(室内の配置(動線)計画)について (例)災害時避難拠点として体育館と家庭科室は隣接配置	
第14回 11月	機能ごとの区画分けに対する意見交換	意見書案の検討
第15回 12月	簡易な設計図面の提示と意見交換	
第16回 28年1月	新しい学校の設計案に対する総まとめ	意見書内容確認

### 【平成28年度以降に検討する事項】

- ①校歌・校章について②学用品について③交流事業の実施④通学区域の変更の有無と変更時期
- ⑤人的支援の必要性とその種別について⑥通学路の安心・安全対策⑦記念室の設置、記念誌の作成等

[各年度のスケジュール]

年 度	H27	H28	H29	H30	H31	H32
協 議	魅力ある学校 づくり協議会	学校統合に向けた協議				
計 画		基本設計	実施設計			
工 事				改築工事		環境整備工事
向原中	→			改築工事		新しい上二中
上二中	→			上二中		新校舎へ 移転

学校統合

**上板橋第二中・向原中の生徒数統合シミュレーション**

平成 27 年 5 月 1 日現在の住民基本台帳から学区域ごとの 0 歳から 14 歳までを抽出し、その人数に各校の想定入学率を掛けて算出した各学校生徒数推計を基に、両校統合後の平成 30 年度以降の生徒数・学級数についてシミュレーションを行いました。統合後は下記 (1) ～ (2) の間で推移すると予測しています。

**(1) 過去 2 年の両校の平均入学率（上二中 54.97% 向原中 35.37%）による合算予測**

※両校の住民基本台帳上の生徒数に各校の入学率を掛けて算出した数を合算した予測

年 度	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
1 年 生 住 基 数	227	200	199	221	203	222	223	241	263	327
生 徒 数	330	312	300	296	303	310	311	318	335	383
総 学 級 数	10	9	9	9	9	9	9	10	10	11

**(2) 過去 5 年間の区立中学校の平均入学率（77.71%）による合算予測**

※区立中学校の過去 5 年の平均入学率を当てはめて算出した予測

年 度	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
1 年 生 住 基 数	227	200	199	221	203	222	223	241	263	327
生 徒 数	530	501	485	480	482	500	502	532	564	645
総 学 級 数	16	15	14	13	14	14	14	16	16	19

**質疑応答**

委 員：コーシャハイム向原（向原 3-7）の D 棟（第 3 期）の入居予定者数は見込んで推計していますか。

事務局：第 3 期の総戸数 333 戸中、ファミリータイプの 2DK 以上が 174 戸あることを想定して推計しています。東京都が出している出現率を基に算出すると、各学年 2~3 人程度子どもたちが増える予測が出ています。

委 員：平成 38 年、39 年入学予定生徒数が急に増えていますが、こちらは何の影響でしょうか。

事務局：区域内 0 歳児のお子さんが増えていることが影響しています。今後引越し等で人口の流れはありますが、その数は予測できませんので加味していません。板橋区では 12~18 学級を適正規模としておりますが、統合等により、一時的に最大 24 学級まで増えることも想定しています。ですので、今後新しい学校を建築する際は、普通教室に転用できるような多目的のルームなどをつくっていく必要があると考えます。

## 第二部

### 設計に関する全体スケジュール等

年度	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
改築工程	計画期間	設計期間		工事期間 (校舎)		建物周囲工事	フルオープン
作業内容	基本構想・基本計画 ・建築条件 ・教育運営方法 ・地域の特性 ・学校の特色 ・求める機能	基本設計 (大まかな設計) 実施設計 (詳細な設計) 申請事務		解体工事 新築工事 建物完成 内装工事 外構工事		外構工事	
一軒家に例えると	何階建て? 何部屋ほしい? 木造? 庭は?	間取り設計 建物の形の設計 内装設計外壁設計 トイレ・キッチン設計 確認申請		既存家屋解体 新築 建物完成 内装工事		門扉 庭 駐車場	

#### 【質疑・意見】

委員：今回の改築に係る建築費の予算規模がまとまる時期はいつ頃ですか。

事務局：平成29年の7～8月頃です。ですが、必要な機能が決まれば教室の面積が決まりますので概略の数字は、平成28年度の基本設計（おおまかな設計）作業中にお示しはできる予定です。

委員：校舎が広ければ広い方がよい学校ができると思いますが、校庭の確保との兼ね合いもありますし、大体どのくらいの規模（広さ）で建てられると想定しているのですか。

事務局：文部科学省が出している基準に基づいて算定すると、必要な運動場の面積が7,690㎡に対し、向原中の校地面積は12,259㎡ですので、引き算した部分については校舎の建築面積として検討できる範囲で想定しています。建築面積は、実際の設計作業の中で決めていくこととなりますが、その前段階で、どのような機能が必要か、ということについて意見を集約することが協議会の一番の要になりますので、検討を進めてまいりたいと考えています。

委員：協議会で検討することは15学級の教室をつくったうえで、教科教室をいくつ作るか、PTA室、茶道室がほしい、赤塚第二中のように音楽室に部活専用の部屋を整備するなどの話し合いをしていくということですか。その際、建てられる階数は決まっていますか。

事務局：検討の流れとしては、必要な機能を挙げていっていただき、設計会社も含め内部で検討し、できる、またはできない、という判断をさせていただきます。その中で高さ制限はできます。あれもこれも欲しいという話になりますと、果てしなく面積が必要になります。そこで、機能の中で何を一番重要視しますか、ということになります。例えば、一般家庭で言えば日当たりは譲れないなど優先すべき項目を並べます。後ろの方の優先事項は兼用できる（兼ねられる）かの議論になります。集約できるところは集約し、結果としてより濃度が濃い建物になります。

委員：前回の協議会でもお聞きしましたが、80年も学校を使用するのですか。

事務局：区では公共施設の計画をたてておりますが、今ある全ての建築物を維持管理し続けることは不可能と考えます。そこで、集約・複合化をします。今までのように建物が傷んでから修理するというやり方ではなく、「長寿命化」と言う、傷む前に手を入れる方針に変えました。これにより、20年に一度手を入れながら80年程度使える施設を目指します。

委員：夢が形になることは皆が望んでいますが上板橋第二中・向原中の話だけでなく、板橋区全体

の話をするとなると色々建てられるのは良いですが、後に建てる学校は財政的に厳しい、ということにならないのでしょうか。

事務局：財政上の影響に関するご心配については、区の教育、営繕、企画、財政関係者が入る会議体を設けます。役割として、区の将来的な維持管理を含めた構想部分に関しては、この会議体が担い、区が立ち行かなくならないよう、コントロールします。魅力ある学校づくり協議会としては学校をより良い施設にしていきたいと思いますという核の部分について担っていただくよう、お願いをさせていただければと考えております。設計については設計業者に委託しますが、今後、実際にどういう風に進めていくかということについては、基本構想や基本指針を作成するにあたり、コンサルタント会社に委託することになりました。教育環境研究所は、改築について検討する会議体の運営、学校の設計等の実績ある会社です。同社にサポートしてもらいながら、区の財政部門も含めて検討していきます。

### 赤塚第二中・板橋第一小施設見学会実施後の意見交換

平成 25 年度に改築した赤塚第二中学校

と板橋第一小学校の見学会を平成 27 年 5 月から 6 月にかけて実施した際の意見交換を行いました。

#### 【意見・感想（抜粋）】

- 赤塚第二中の武道場では災害時等に畳を利用し、休息場として活用できる設計が良かったです。
- ホームルームは一つのクラスとして帰属意識を持つためにも、それなりの広さがあった方がよいと思います。また、意匠に凝った部分があり、費用の面から検討する必要もあると思います。
- 教科センターというのはホームルームを基準に教科教室に生徒が移動して授業を受ける形ですが、一日分の教科書をかばんに入れ、ホームルームに戻らず移動する生徒もいるとお聞きしました。廊下もあまり広くない中で、全学年の移動は非常に大変だと思いました。また、一部教科センター方式にするなど、教科ごとに判断していき、全ての教科を全て同じやり方にするかの検討もしていく必要があると思います。
- 実際に学習や生活をしている赤塚第二中の生徒さんの様子はどうなのでしょう。不満等はあるのでしょうか。生徒からの視点を取り入れるのも一つの方法だと思います。
- 保健室が校庭に面していることや、災害時に使い勝手がよさそうと感じました。下駄箱のふたに日光の木を使っているとのことで、昇降口では、木の香りがとてもよいと感じましたが、大変高価であるとも聞いています。費用のことも考えて、廃材を組み合わせて素敵なものをつくってもよいと思います。また、家庭科室の調理室と被服室が繋がっていましたが、調理室は独立していたほうが良いと思います。
- 校庭にある夜間照明がよかったです。災害時に停電していなければ遠くからでも避難所として目印になり、非常に役に立つと思います。
- 次回以降、テーマごとの話ということですが、私たちは専門家ではないので、漠然とした意見しか持っていません。ですので、テーマに沿ったメリット・デメリットを出してほしいと思います。赤塚第二中などの実際の現場の声があれば私たちも意見を言いやすいと思いますし、特に、教科センター方式を採用していない板橋第三中の現場の声も聞きたいと思います。

#### 次回予定 協議内容

平成 27 年 9 月 8 日（火）午後 6 時 30 分～ 上板橋第二中学校 2 階 ランチルーム  
施設に対する要望などの意見交換等  
協議会は原則傍聴できます。詳しくは下記までお問い合わせください。

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり課 学校配置調整第一グループ  
電話 3579-2624 FAX 3579-4214

※魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）ニュースは区ホームページからご覧いただけます。[http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c\\_kurashi/063/063153.html](http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/063/063153.html)